

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇
発生予察注意報第 2 号作物名 水 稲
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂後収穫期まで
- 3 発生量 平年比多い
- 4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 6月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、府内全域の確認地点率は 83.3%、平均虫数は18.3頭であり、平年比多い発生であった。主要な発生種は、アカスジカスミカメ(図1)、アカヒゲホソミドリカスミカメ(図2)、トゲシラホシカメムシ、ホソハリカメムシであった。特にアカスジカスミカメが多く捕獲された。今後、これらのカメムシ類が出穂後水田に侵入することが懸念される。なお、府内各地の畦畔雑草における発生状況は表1のとおりである。
- (2) 6月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認地点率は26.7%、平均虫数は0.8頭であり、平年比多い発生であった。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメであった。なお、府内各地の水田内における発生状況は表2のとおりである。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数(6月第2半旬~6月第5半旬までの合計値)は、京田辺市で5.0頭(平年:2.5頭)、亀岡市で31.0頭(平年:14.8頭)と平年比やや多く、京丹後市で105.0頭(平年:45.6頭)と平年比多かった。アカスジカスミカメの予察灯への誘殺数(同上)は、京田辺市で3.0頭(平年:0.0頭)、京丹後市で94.0頭(平年:23.7頭)と平年比多かった。亀岡市で13.0頭(平年:14.9頭)と平年並であった。



図1 アカスジカスミカメ



図2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

表1 斑点米カメムシ類の調査結果（6月中旬 畦畔20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数								
25年	83.3	18.3	83.3	78.2	88.9	3.0	66.7	4.7	88.9	2.9
平年	39.3	2.2	41.4	2.6	32.7	1.2	34.1	2.3	47.8	2.9
24年	46.7	2.5	66.7	4.8	22.2	0.3	50.0	2.7	55.6	3.0
23年	40.0	3.8	33.3	1.5	44.4	2.0	33.3	4.7	44.4	6.4
22年	40.0	1.6	33.3	1.5	33.3	1.0	50.0	4.0	44.4	0.6

表2 斑点米カメムシ類の調査結果（6月中旬 本田20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数								
25年	26.7	0.8	16.7	0.5	11.1	0.3	16.7	0.7	55.6	1.3
平年	2.8	0.05	1.4	0.04	3.1	0.03	6.4	0.1	1.1	0.01
24年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23年	6.7	0.1	0.0	0.0	11.1	0.1	0.0	0.0	11.1	0.1
22年	3.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.7	0.0	0.0

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには**畦畔の草刈りを行い、カメムシ類の餌となるイネ科雑草の出穂を防ぐ**ことが有効である。草刈りは、**出穂の2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**である。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる**。出穂期に近づきすぎたから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

現在、カメムシ類の発生が少ない地域でも、雑草管理には十分注意する。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

農薬の散布に当たっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。